

# 出張報告書

下関市議会議長殿

令和7年11月4日

職氏名  議会運営委員会 委員長 林 昂 史 副委員長 恵 良 健一郎 委員 関 谷 博 委員 林 透 委員 木 本 暢 一 委員 戸 澤 昭 夫 委員 桧 垣 徳 雄 委員 濱 岡 歳 生 委員 東 城 しのぶ 担当書記 中 山 宜 久 担当書記 安 田 雄 一	用 務  1. 議会改革に関する取組について（鳥羽市） (1) 議会図書室の活用について (2) 議会広報に関するSNSの活用について (3) TOBAミライトークについて  2. 議会改革に関する取組について（呉市） (1) 議会広報について ・若者へ情報を届けるための取組について（議会広報紙ほか） ・SNS等の活用について (2) 議会図書室の活用について
期 間  令和7年10月6日から 令和7年10月8日まで	出張先  三重県鳥羽市 1 広島市呉市 2

令和7年度議会運営委員会の活動方針に沿い、所管事項の調査・研究の充実を図るため、三重県鳥羽市において議会図書室の県立図書館等との連携、SNSの利用状況及びTOBAミライトークについて、広島県呉市において議会だより、SNSの利用状況及び議会図書室への司書配置等について、それぞれ先進地視察を実施したので、その概要を報告する。

## 概 要

**【三重県鳥羽市 人口：16,083人 議員定数：13名】**

鳥羽市は志摩半島の東端に位置し、西には伊勢市、南には志摩市となっている。市域全体が伊勢志摩国立公園に指定されており、リアス式海岸が広がっている。産業は主に漁業と観光業であり、飼育種類数日本一を誇る鳥羽水族館などがあるほか、リゾート地として知られている。

## 出席者

**【鳥羽市議会】**

河村議長、南川副議長、世古議会運営委員長、木下議員、瀬崎議員、佐々木議会事務局長 ほか

視察の冒頭、河村議長から挨拶をいただき、各議員の御紹介を受け、林委員長の答礼及び本委員会委員の挨拶後、鳥羽市議会事務局から視察内容について説明がなされた。説明後、質疑応答を行い、終了後、議場及び議会図書室等の見学を行った。

## 1. 議会改革に関する取組について（鳥羽市）

### (1) 議会図書室の活用について

- ・ 図書館の連携に至った経緯について、平成25年当時、本来の議会図書室機能は果たされていなかった。今後、議会による政策提案をする上で、より専門的かつ高度な調査研究体制が必要となることから、議会図書室の充実強化を検討するため、議会事務局主導で動き出し、「鳥羽市立図書館」及び「三重県立図書館」との連携が実現した。
- ・ 図書館連携の概要について、「図書の貸し出し」については、議会事務局が議員から図書貸出の依頼を受け、鳥羽市立図書館または三重県立図書館に依頼。「レファレンスサービス（調査相談）」についても同じく議会事務局が議員から依頼を受け、鳥羽市立図書館にレファレンス依頼を行い、対応が難しい場合は鳥羽市立図書館を経由して、三重県立図書館に依頼を行っている。
- ・ 図書館連携による効果について、逐次刊行物等を借受けにより入手することが可能となった。課題については、レファレンスサービスの利用頻度が少ないといったところ。

### （主な質疑）

問 議会図書室を設置する要綱またはルールのようなものはあるのか。

答 議会図書室設置に係る規程はある。

問 議員以外の利用は可能か。

答 職員の利用は度々あるが、市民の方の利用は可能であるものの、利用はない。

問 議員からレファレンスサービスの依頼を受け、調査及び回答を得た場合、その内容を他の議員にも情報共有することはあるのか。

答 レファレンスサービス利用の実績があまりないため、事例の紹介は出来ないが、今後ご利用があればそのように対応することで議員も使いやすくなると思う。連携のシステムは良いものであり、一般質問等の際にもどこのソースを基にしているかというところは非常に大事になってくるころではあるが、インターネット上に様々情報があるなかで、紙媒体の資料を借りるということが時代に即しておらず、活用については微妙な状況となっている。

問 紙媒体ではなく、電子図書の活用については検討されているのか。

答 特に電子図書の導入については検討していないが、司書資格を有した職員による図書の案内等が出来れば、議員による利用頻度も高くなるのではないかと思う。

問 議員それぞれが i P a d で図書を検索できるようになっているのか。

答 事務局職員が、議員の i P a d のトップ画面上に鳥羽市立図書館及び三重県立図書館の検索ページの URL を貼り付け、すぐにアクセスできるよう設定させてもらっている。

問 図書館の図書を議会図書室に置いていたりするのか。

答 別紙の雑誌類は借り受けてから 2 週間程度、議会図書室に置いている。

問 特定の分野やタイムリーな図書等を、例えば 10 冊借り受けるということも可能なのか。

答 現在は、会計年度任用職員が選書をして借りている図書を置いている。

## (2) 議会広報に関する SNS の活用について

- ・鳥羽市議会では、身近な情報発信ツールとして、X（旧 T w i t t e r）、F e e b o o k、L I N E を活用しており、担当事務局職員が決裁を受けることなく投稿している。主な投稿内容は、会議や行事の日程、議案及び議決結果、市議会だよりの掲載等となっている。投稿内容については、シンプルでわかりやすい内容を心がけている。
- ・I C T を活用した情報発信として、広報誌の無料配信アプリ「マチイロ」を活用し、平成 27 年 2 月発行分より配信。アプリをダウンロードし、読みたい広報誌を登録すれば、以降はプッシュ通知により更新情報が届く。他の自治体の広報紙も閲覧可能となっている。
- ・SNS 等の活用については、若者向けに活用しているものではなく、幅広く議会に興味を持ってもらうために活用している。

### (主な質疑)

問 事務局職員による SNS の投稿について、市民等からコメントがあった際にどのように対応しているのか。

答 基本的にはないが、あった場合については、正副議長に対応について伺う。本来であれば、対応方法についてコメントを出来ないようにするなど、しっかり決めておいた方がよいと思う。

問 「議会図書室の活用」や「SNS の活用」など、様々な取組をされているなかで、市民から「議会が何をやっているのかわからない」といった意見が出るのは、下関市議会も一緒であるが、無駄な取組が多いことによるものだと思う。無駄な取組はやめることについてどのようにお考えか。

答 鳥羽市議会においては、会派等関係なく先輩議員にも相談を持ちかけやすいため柔軟に対応できるようにしている。

問 鳥羽市の公式LINEは議会の発信と執行部の発信をミックスしたものか。

答 鳥羽市役所の全ての課が情報発信をしているものである。

問 事務局としては、発信先が2, 100人位、そのうち何かしらの反応をされた方が900人という状況について、多いという認識か。

答 以前、鳥羽市議会単独でLINEの運用をしていたところ、200人位にしか発信ができていなかったのので、その頃と比べると4倍以上となっている。

問 SNSを運用する上でのアドバイスなどがあれば。

答 Xについてはフォロワー数が減ってきており、下火傾向にある。一方、Facebookのフォロワー数は増えているが、若い方々はあまり使っておらず、少し年齢層の高い方々使われている印象であり、投稿の際に文字と写真だけでなく、動画等も一緒に投稿出来るとさらに反応が良くなるのではないかと思う。

### (3) TOBAミライトークについて

- ・平成28年5月に広報・広聴の一元化を実現するため、広報広聴委員会が設置され、(旧)議会報告会並びに意見交換会に替わる新たな議会報告会の形について検討・協議を行い、「TOBAミライトーク」が開始されることとなった。
- ・(旧)議会報告会との主な違いは、地域課題の共有を主目的とし、議会報告ではなく、テーマに沿った意見交換のみを行っている。
- ・開催実績として、平成28年度から令和6年度までに32回開催しており、団体による手上げ方式のみならず、団体への声かけによる開催もなされている。
- ・実施後、グループ毎に報告書を作成し、広報広聴委員長へ提出、広報広聴委員会で報告書の仕分けを行い(同時に執行部へ情報提供)、抽出した意見について議会運営委員会で取扱いについて議論をしている。

#### (主な質疑)

問 TOBAミライトークへ議員を派遣するにあたり、議員が各党に所属していることなどから考え方がそれぞれ異なるかと思うが、どのような仕組みで議員を選抜しているのか。

答 申し込みいただいた団体に来てほしい議員を伺う。特になければ、テーマを基に広報広聴委員会で相談し、その都度決定している。

問 団体との意見交換に臨む前に議員間論議は行われているか。

答 特に行っていないが、事前に広報広聴委員会の正副委員長と事務局職員が先方に出向き、意見交換する内容や課題を確認している。

問 TOBAミライトークは、通年議会との直接的な関連性があるのか。

答 特にリンクはしていない。議会改革という一つの流れのなかで通年議会という形式をとっている。

問 申出のあった団体とテーマに沿った意見交換をするなかで、あらかじめ設けられた時間内に、ある程度方向性や方針がまとまるものなのか。

答 議員が偉そうに見えないように（議員バッジを外すなど）努め、話しやすい雰囲気づくりを意識している。また、当時の広報広聴委員会のメンバーがファシリテーションの研修を受けて、ファシリテーターになれるよう準備をし円滑に進むよう取り組んでいる。

問 意見交換をした報告書の内容について、委員会もしくは議会として取り扱うこととなった内容はどのように取り扱われているのか。

答 聞きおくべき内容については情報共有のみとなるが、深掘りして調査すべき内容と判断したものは、広報広聴委員長から議会運営委員会に報告をして、議会運営委員会で了解を得られれば行政常任委員会へ付託し、所管事務調査をする流れとなっている。広報広聴委員会には調査権を持たせていない。

問 若者向けの議会情報の発信についてお考えがあれば、お聞かせください。

答 小学6年生とTOBAミライトークを実施した際の意見をまとめて執行部に対して提言を行った実績があり、若者に対して活動を知ってもらう良い機会となった。



【鳥羽市視察：視察状況】



【鳥羽市視察：議場にて】

---

## 概 要

【広島県呉市 人口：198,464人 議員定数：32名】

呉市は広島県の南西部に位置する瀬戸内海に面した中核市であり、地形的に天然の良港とされ、明治時代以降は軍港として栄えたまちである。産業は造船、鉄鋼、パルプ、機械、金属などの重厚長大産業が中心であり、海上自衛隊との関わりも強く、近年では観光産業も発展している。

出席者

【呉市議会】

中田議長、久保議員、蔦村議会事務局議事課課長補佐 ほか

視察の冒頭、中田議長から挨拶をいただき、林委員長の答礼及び本委員会委員の挨拶後、呉市議会事務局から視察内容について説明がなされた。説明後、質疑応答を行い、終了後、議場及び議会図書室等の見学を行った。

### 1. 議会改革について（呉市）

#### (1) 議会広報について

##### ① 若者へ情報を届けるための取組について（議会広報紙ほか）

- ・呉市議会では、今年会議規則を改正し、これまで議会だよりの編集・発行に特化していた広報委員会の役割に議会広報全般に関することを加え、その権限を強化している。
- ・現在の議会だよりの「チーム議会」は、平成29年5月号から。年4回（5月8月、11月、2月）各回とも87,000部発行としている。
- ・編集スケジュールは発行日の15週間前（8月号であれば4月中旬）に特集の取材を行う。取材後に事務局が表紙案や記事案を作成し、9週間前（8月号であれば6月定例会の告示日）に第1回広報委員会を行い内容を確認・協議する。発行日の7週間前（定例会最終日）に第2回を行い、第1回での修正の確認、定例会で焦点となった議案審議の選定、一般質問原稿の各議員への作成依頼を行う。
- ・広報委員会の予算は委託料と視察費で年1,000万円程度。委託料は印刷製本費であるが、デザイン料は含まれていない。表紙のデザイン、作成等は事務局がエクセルで行っている。特殊なソフトを使用しないのは、職員の入替わりがあっても操作ができるようにするためである。
- ・令和4年に気運の高まりに伴い紙面のリニューアルを行った。デザイン会社

からWEB研修を受け、アドバイスをもとに写真やイラストの多用、余白を設けるなどの改革を行った。

## ② SNS等の活用について

- ・呉市議会ではこれまでFacebookを利用していた。これは議会事務局が作成し、事務局職員が議会情報を投稿していた。フォロワーも伸び悩んでいたため、令和7年3月末をもって廃止した。
- ・新たな情報発信として、呉市の公式LINEを利用することとした。呉市公式LINEは2万5千人の登録者があり、多くの市民に届く公報媒体として活用されていた。議会が独自に公式LINEを始めるよりも相乗りしたほうがよいと判断した。
- ・課題としては、市の秘書広報課を通して記事を公開するため、事務局の決裁過程が追加される点や、文字数の制限が250文字までであることなど。また、市側の掲載記事が同日に数件あると、議会の情報が埋もれてしまう点も問題である。
- ・昨年高校生に「議会がSNSを活用して情報発信をするにはどのSNSが有用か」を聞き取ったところ、「TikTokやInstagramを活用しても議会に興味がないので見ない」という回答であった。ただし、「若者に刺さりやすい投稿（ユーモアさがあるものやエモいもの）であれば可能性はある」とのこと。
- ・令和5年9月から現在のインターネット中継のほか、YouTubeを利用した字幕付録画映像を公開している。事務局において会議録原稿を活用してテロップを生成し、会議から1週間程度で公開していたが、令和6年6月からテロップ生成ができなくなった。YouTubeのポリシー違反と判断されたことによるペナルティと思われる。現状回復していないため、現在はYouTubeの自動生成テロップを使用している。このAI自動生成は完璧ではないが、現在苦情等はない。

### (主な質疑)

問 議会報を作成するに当たって執行部と記事内容の調整等を行っているか。

答 内容の選定等の調整は行っていない。広報委員会で市民が気になるのではないかと内容を決定している。ただし、文言等の正確さについては執行部に確認している。

問 配布方法は。

答 市報と一緒に自治会に配布をお願いしている。ただし、議会報が市報に挟まって

配られるところが残念なところ。

問 F a c e b o o k の廃止はどこで決断したか。

答 議会運営委員会で決定した。今後は会議規則の改正により広報委員会のほうでも SNS 関係は検討されていくと思われる。ただし、若者に刺さる SNS は我々の感覚では難しく、全国の議会の課題であろうと思われる。

問 発信に対するコメントが市民から来たときの対応はどうしていたか。

答 F a c e b o o k ではコメント欄は閉鎖していた。今後 SNS でコメントを受け付けたときに、責任を持った回答ができるのか、決定を誰がするのかというのは広報委員会で検討することとなる。「事務局に任せた」は、なしにしようと言っている。

問 会派の広報誌との関係は。

答 議会広報誌は議員一人をピックアップするような紙面構成は避けているので、会派の広報誌とはそこで線引きがされている。議会広報誌を作成することになるに当たり、個々の議員ではなく、議会としてどうなのかを協議する中で合意形成された。

問 議会報をよくしていくために必要なことは。

答 議会だよりをよくしていく、引きつける紙面を作っていくためには、議員の意識改革が必要。議員としてはどうしても伝えたいことがあるから文字数が多くなっていくが、「伝えたいこと」＝「知りたいこと」ではない。「伝えるのではなく伝わる広報誌」を目指す。全ては伝えられないが、とにかくとっかかりが大事。

問 紙面の内容（トピックスや一般質問なども）は執行部に確認してもらうのか。議員の原稿作成も含め、期間的に大変ではないか。

答 こちらで十分確認した上で、執行部に確認はお願いしている。8月号は8月10日発行なので、7月20日には校了となる。定例会が終わるまでには事務局では原稿は全てつくっている。議員にも一般質問の原稿は質問した5日後でお願いしている。表紙のデザインなども事務局職員が作成していることで必要日数を短縮している。

## (2) 議会図書室の活用について

- ・ 呉市議会では、平成27年に議長が議会図書室の機能強化を掲げ、議会事務局の思いも一致。平成28年に新庁舎の建設が進み、議会図書室は市の統計書や計画書を所蔵する市政資料室と併設となり、議会棟ではなく市庁舎内に一般市民も利用できる「議会図書室兼市政資料室」（104㎡）として整備された。
- ・ 事務局内にPTを設置し、先進事例を視察した上でレファレンス機能を重視することに決定。①蔵書の充実・資料の収集 ②他の図書館との連携 ③議員へ

の積極的な情報提供 ④レファレンスサービスの強化 といった対策を行ってきた。

- ・議員への積極的な情報提供としては、年4回議会図書室情報誌「チャージ」の発行、議員個別メールサービス「イナズマ！」などのサービスを行っている。
- ・「イナズマ！」は、各議員に3つまでキーワードを設定してもらい、そのキーワードに関する新聞記事、図書などの情報を毎日議員に送信している。
- ・常駐の司書（嘱託職員）を1名配置しており、情報収集能力を生かしてレファレンスサービスを強化している。これと事務局職員による行政情報の分析により、議員の一般質問の質を高めるようにしている。

問 レファレンスサービスに予算を組んでいるのか。

答 特に組んでおらず、現状の司書を含む職員で対応している。「イナズマ！」は4人の職員で通常業務として毎朝7紙を調査し、昼までに各議員に送信している。

問 レファレンスサービスについて。

答 議員によっては、一般質問の前に事務局職員と司書に集まってもらい、3人で協議する。そして質問ができたならまた見てもらい客観的な評価等を行ってもらうことで、質問の質を上げることができる。

問 会計年度任用職員である司書の選定はどのように行ったか。

答 議員に対応できる能力等も必要なので、全国の専門図書館協議会などの求人サイトを通じて幅広く全国から募集した。現在の司書の方は地元の方だが、以前には鹿児島から来ていただいていたことも。

問 今後司書を増員していく予定は。

答 現状は1人の司書で対応できており、予定していない。司書1人で量が多く対応できない場合は、調査広報グループでも対応する。



【呉市視察：視察状況】



【呉市視察：議場にて】